

取組概要

2024 年 1 月 19 日

(あて先)
埼玉県立大学 学長

候補者 所属学科 作業療法学科
氏 名 小泉浩平

私の取組は次のとおりです。

所属する作業療法学科では、豊かな人間性と倫理観を基盤に、療法士の思考・知識・技術・態度を段階的に身に着けることが科目編成の指針です。その内、身体や生活に障害を抱える方を的確に捉え、リハビリテーションプログラムの立案および実践を扱う科目を中心に担当しています。授業では自身の臨床実務経験を活かし、求められる人材像を具体的に提示し臨床現場と突合せた内容を心がけています。自ら人材像の実現に向かえるようには、「作業療法士になりたい」と思える職種の楽しさやキャリア形成を伝え、卒業後に活かせる資料を多く提供することで、将来に向けての課題を明確にしています。また、学生が滞りなく学修出来るよう学年担当として支援を継続しており、学生が自分の意思で行動を選び取れるよう配慮しています。被推薦理由はこれら点を評価していただいたと考えており、以下に具体的な取り組みについて記載します。

担当授業での取り組み

被推薦理由に「授業が分かりやすい」「実習や臨床に活用できる資料の提供」という意見をいただき大変光栄に思います。授業では、技術習熟に向けた一連のプロセスを経験することと、経験値を高めるために繰り返しアクセスし易いよう Web 配信の長所を活かしたコンテンツ提供に努めております。リハビリテーション学修で労力を要す背景には、医学、生理学、心理学、運動学など多様な情報を集約する能力が求められる点、特に学外実習では、短期間で情報理解し、障害仮説を段階的に検証するため、疾患に応じた知識・技能の対策を講じることが挙げられます。学生には、情報集約する手法を紹介、実践を通して、「出来る」体験を繰り返し、課題は常に手の届くところにあると伝えるようにしています。また、3-4 年生は感染症状況で学外実習に制限を受けることが依然として多い状況です。そのため、授業で現場の療法士の意見や思考過程を授業資料に多く反映し、

県内で活躍する療法士と連携のうえ臨床見学を企画するなど、臨床業務を想定しやすく学生の実習・臨床に対する不安感を緩和するようにも工夫しております。このような取り組みは、被推薦理由につながったと考えます。

作業療法士になる学生育成は主たる仕事であります。求められる人材像に応えるために「自ら作業療法士になりたい」と思う学生の育成を心がけています。この意志は生涯学習する職業人の基点になることから、療法士の先輩でもある教員が教科書の知識のみならず経験知から手本を示し、時には将来に向けた問題を提起し、探求心を持ち続ける姿勢の重要さを伝えていきます。特に、リハビリテーション療法士は医師のように必修化された臨床研修制度はないため、卒前から卒後を視野に入れた指導を含めるように工夫しています。具体的には、基本的臨床能力を例示し、卒後の各時期において自身のデータベースをアップデートする方法を共有します。卒後に向けた指導は、教員が学生の先輩として高い目標でもあり同時に、職業人として手の届き、越えていくべき対象であることを強調しています。「進路相談での教示」「価値観や考え方の共有」といった被推薦理由は、卒後を見据えて授業展開したことに評価をいただけたと考えます。

基本的臨床能力マトリックス N Ban, 1997
伴信太郎, 2001



学生支援の取り組み

私は2020年度の着任から現在まで、学年担任を連続して務めております。作業療学科の学年担任は1学年につき2人で担当し、協力して学生生活の支援に取り組んでいます。2020年からはコロナ禍となったため、遠隔での対応・面談が中心でしたが、支援に偏りが生じないようにeポートフォリオを用いて自身の学修状況と課題を整理してもらい共有しています。自身で目標と課題を明確にしたことで、学年担任は意思を持った行動の選択を促す根拠として利用し、学生の意向を尊重した指導が出来るよう心掛けています。このように、遠隔で情報共有するプラットフォームが発展したことは、業務時間を問わず他教員と連携して対応を進めることができ、コロナ禍で培った強みであります。そのため、被推薦理由の「相談に対する対応」という内容は、学生が情報や意見を欲しているタイミングで、過度に干渉することなく的確に関わることができた結果であると分析します。

最後に、このたび第10回道学教師理事長賞の被候補者に選出いただき大変光栄に存じます。大学教員は、学生が社会的・職業的に自立できるように、自身の将来に希望を抱くコンテンツを作成・提供し、責任を持って行動を選択する、そのような基本的な支援の継続が責務であると考えます。担当させていただいている

一連の教育内容は、「療法士像の実現に向けたプロセス」を意識してもらうことを心掛け、学生が自ら行動を選択する、即ち職業人としての素地を養うことを念頭に構築しています。私自身もまだ学びの途中ですが、埼玉県立大学で学ぶ次世代の学生らと共に研鑽を積み、埼玉地域に貢献しながら共に成長したいと考えております。